

中国共産党大会報告からみる内政外交政策の方向性

丸紅経済研究所

シニア・アナリスト 李 雪連

中国共産党大会とは

中国の指導政党である共産党は 1 億人程度の党員を有しているが、その中から選ばれた 2 千人を超える党代表が 5 年に一度開催される「中国共産党全国代表大会（略称：党大会）」において、中国を率いる党指導部を選出する役割を担う。これは中国の党大会が世界から注目される最大の理由。

今月北京で開催された党大会を経て、新たな党指導部（任期が 5 年）が 10 月 23 日に発足した。習近平総書記は予想された通り 3 期目に突入した。同氏の続投により、中国の内政や外交政策などはこれまでの軌道から大きく逸することが無いだろうとみられている。一方、党大会の場で行われた同氏の演説では目立った変化も見られた。

今後 5 年間内政外交政策の方向性

10 月 16 日の党大会開幕式では、習近平総書記が党指導部を代表して演説を行い、党が目指す 2 つの大きな目標のうち、小康社会（ややゆとりのある生活ができる社会）の全面的完成を最大の実績に挙げた。今後 5 年はもう 1 つの目標である「21 世紀半ばまでの強国入り」に向けた重要なキックオフ期と位置付け、内外情勢における「波乱万丈な試練（これまでで最も厳しい表現）」にも備える必要性を強調した。

また、米中対立を念頭に、先端技術での「自立」を党大会の場で初めて呼び掛け、高度人材の育成やイノベーションの促進を急ぐ方針を示した。台湾との統一は「中華民族の偉大な復興」のラストピースと位置付け、平和的な統一に向けて最大限の努力をしようとしつつ、独立勢力や外部勢力を対象とした武力行使の権利は決して放棄しないと表明した。表現自体は従来よく使われていたものだが、党大会の場で武力行使に言及したのは初めてだ。

中国は建国当初の革命路線を 1980 年代の改革開放を機に軌道修正し、イデオロギー色を抑えてきた。しかし、今般の演説では中国独自の発展モデルを意味する「中国式現代化」を初めて前面に出し、さらにそれを「人類が現代化を推し進める上で（西側の資本主義と並ぶ）もう一つの選択肢」とであると誇示したことにより、イデオロギーをめぐ

り西側との対立が先鋭化することが懸念される。

【図表】今後5年間の内政外交政策の方向性（党大会報告）

目標	• 党の最大の目標は「21世紀半ばまでの強国入り」 • 2035年までに中進国、2050年までに先進国入りの2段階 • 今後5年間は、同目標に向けた重要なキックオフ期
経済	• 経済発展重視。改革開放や市場化を継続 • （米中対立を念頭に）先端技術での自立や高度人材の育成を急ぐ • エネルギー総量規制からカーボン排出総量規制へ
政治	• マルクス主義の中国化に自信を強める • 中国式現代化（中国独自の発展モデル）を前面に出しイデオロギー色を強化 • 国家安全保障能力の増強。政権・制度・イデオロギー安全を死守
外交	• 全方位外交を維持し、国際影響力を拡大 • 一帯一路の高度化 • グローバルガバナンスの改革と構築を積極的に関与
台湾	• 中華民族の偉大な復興のラストピース • 台湾との統一は中国人が自分達で決める。武力行使は独立勢力や外部勢力に限定する手段（表現自体は従来よく使われていたものだが、党大会の場での言及は初）

（出所）第20期党大会開幕式における活動報告より丸紅経済研究所作成

楽観できない滑り出し

来年3月に開催される見込みの全国人民代表大会（全人代）で国家主席や総理、全人代委員長など国家組織のトップ人事が決まる段取りとなっている。経済運営を司る次期総理や、対米政策を総括する要職の人選などが当面の焦点。また、ゼロ・コロナ政策や史上もっとも困難な局面にある住宅不況への対策など、今回の党大会、または来年の全人代を契機に軌道修正が入るか否かにも注目が集まろう。

他方、公表が延期となっていた7～9月期の実質GDP成長率が党大会終了後10月24日に公表された。前年比+3.9%（4～6月期：同+0.4%）、前期比年率+16.5%（4～6月期：同▲10.4%）と改善を見せた。

年末にかけて景気刺激策のラストスパートが予想されるが、ゼロ・コロナ政策や、住宅不況が重しとなり年間の実質GDP成長率目標（前年比+5.5%程度）の大幅未達が確実視されている。来年も低成長が続く可能性があり、新指導部にとって楽観できない滑り出しとなりそうだ。党指導部は長い目で2035年までに中進国入り、2050年までに先進国入りを目指し「成長最優先」としているが、構造的な経済成長の低下や対外関係の悪化といった内憂外患へどのように対処していくかが注目される。

担当	丸紅経済研究所 産業調査チーム シニア・アナリスト 李 雪連	E-mail : xuelian-li@jpn.marubeni.com
住所	〒100-8088 東京都千代田区大手町一丁目 4 番 2 号	
WEB	https://www.marubeni.com/jp/research/	

(注記)

- ・本資料は丸紅グループ内での利用を目的としたものであり、対外的な利用に関しては担当までご連絡願います。
- ・本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、当社はその正当性、相当性、完全性を保証するものではありません。
- ・本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するもので、当社は何らの責任を負うものではありません。
- ・本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。
- ・本資料に掲載している個々の文章、写真、イラストなど(以下「情報」といいます)は、当社の著作物であり、日本の著作権法及びベルヌ条約などの国際条約により、著作権の保護を受けています。個人の私的使用及び引用など、著作権法により認められている場合を除き、本資料に掲載している情報を、著作権者に無断で複製、頒布、改変、翻訳、翻案、公衆送信、送信可能化などすることは著作権法違反となります。